

# 指導員の仕事を学ぶ

## 第33回新指導員学校



岩手県学童保育連絡協議会  
〒020-0122  
盛岡市みたけ3-38-20  
岩手県青少年会館内  
Tel・Fax 019-681-0651

県連協主催の「第33回新指導員学校」は6月3日に岩手県青少年会館で開かれました。県内の採用3年程度の指導員68人が参加し、学童保育の役割や指導員の仕事について学びました。

### 講話・講義

はじめに嘉村祐之全国連協副会長（盛岡市・緑が丘学童保育クラブ指導員）が「学童保育の歴史」の講話を行い、「県内の学童保育は、戦後に引き上げてきた人や戦争未亡人が働くため、自ら学童保育をつくらせたのが始まり」と紹介。現在に至



講師を務めた高橋豊子県連協研修部長

るまでの国の施策の変遷、指導員の位置づけの変化に触れ、今の学童保育の足下を解説しました。

続いて高橋豊子県連協研修部長（北上市・北上学童保育所つくしクラブ指導員）が「指導員の仕事」の講義を行いました。高橋研修部長は「指導員の仕事は運営指針なしには語れない。運営指針は指導員の教科書」と述べ、運営指針とテキスト（全国連協発刊）のつながりを説明。運営指針のポイントを現場の事例を交えながら解説しました。講義の結びには「指導員として長く働き続けてほしい。はじめの3年くらいは大変なこともあるが、それ以降は喜びやそれ以上のものが自分を支えてくれる。職業倫理を守り、真面目から子どもと向かい合っただけでいい」と参加者にメッセージを送りました。

### 先輩の体験談

午後は先輩の体験談を聞く時間が設けられ、水本真美指導員（滝沢市・ひかりの森学童クラブ）、永洞麻衣指導員（盛岡

市・緑が丘学童保育クラブ）が発表。水本指導員は保護者とのコミュニケーションに悩んだ経験から「話さなければ伝わらない。他愛のないことでも、自分から話かけることを大切にしている」と話しました。永洞指導員は「はじめは子どもの汚い言葉にへこんだ。でもその汚い言葉の中に本音が隠れている。まずは本音を吐き出させ、発散させることも必要」と自身の体験で得たことを語りました。

### テーブルトーク

テーブルトークは参加者を8グループに分けて行われました。「宿題をしたがらない子どもにどう声をかけたらよいか」「父母がいつも急いでいて、子どもの様子を伝えるのが難しい」「危ない遊びをどこまで見守るか」など事前のアンケートをもとにした様々な疑問や悩みを出し合いました。

ひとつのテーマからも次々に話題が広がり、互いの発言を通して指導員の仕事について理解を深めました。

## 署名1万4千筆を提出

### 従うべき基準を堅持する請願

全国連協は「学童保育の従うべき基準を堅持する請願」を国会に提出するため、各都道府県連協に署名の協力を要請していました。従うべき基準が参酌化され、資格のない大人が一人で保育をするようなことになれば、子どもたちの安全にも影響を及ぼしかねません。県連協はこの請願の重要性から1万筆を目標に署名の取り組みを進めていましたが、6月7日までに1万4508筆も署名が集まりました。皆さんのご協力に感謝申し上げます。

### 新指導員学校感想

#### 子どもがいない時間も大切

花巻市わこの家学童クラブ・佐久間 夏海指導員

現場の指導員の先生の講演はとてもためになった。ぜひ、持ち帰って職場で共有したい。子どもがいない時間の使い方、日程確認や申し送りの大切さに気付かされた。テーブルトークではリラックスして、話すことができた。他の学童のおやつの話や、クマに遭遇した時の話など色々な話を聞くことができてよかった。

### 指導員の仕事 広くて深い

一関市赤萩クラブ・野村 祥吾指導員

研修を受講して、テキストの内容は多岐にわたり、指導員の仕事は広くて深いことを実感した。高橋豊子先生の情熱、指導員という仕事に全身全霊で取り組んでいることが伝わった。先輩を見習う日々だが、自分も一生懸命勉強しなければいけないと思った。学童保育とは何か、その根っここの部分を学ぶことはとても大切で、このような研修があれば何回も受講したい。